

(資料1) 横断的・総合的な学習に関する用語の定義・意味

静岡県総合教育センター作成

横断的な学習

各教科・道徳・特別活動の枠を残しながら、特定のテーマに関する学習内容・活動を関連づけて編成する学習

総合的な学習

各教科・道徳・特別活動の枠を取り去って、特定のテーマに関する新たな学習内容・活動を編成する学習

横断的・総合的な学習の意味

- ・「横断的な学習」、「総合的な学習」、それぞれの意味
- ・「横断的な学習と総合的な学習とを合わせた学習」の意味

合科的な学習

各教科のねらいを、より達成しやすくするために、各教科の枠を残しながら、一定の時間に複数の科目の類似内容を関連的に指導する方法

クロスカリキュラム

複数の教科、科目の指導者が、横断的で現代的な課題に関するカリキュラムを作成し、その学習を共通の理念に立って、計画的、関連的、交差的に指導していく方法

クロスカリキュラムは、もともとイギリスなどで行われていたが、イギリスで全国共通カリキュラムの導入に伴って、経済、健康、環境、公民など横断的な学習課題を教えるための方法として取り上げられている。

総合学習

総合的な学習の中でも、新たな教科または科目として編成し、教育課程に位置づけた学習

(例)「表現科」「人間科」「環境科」など

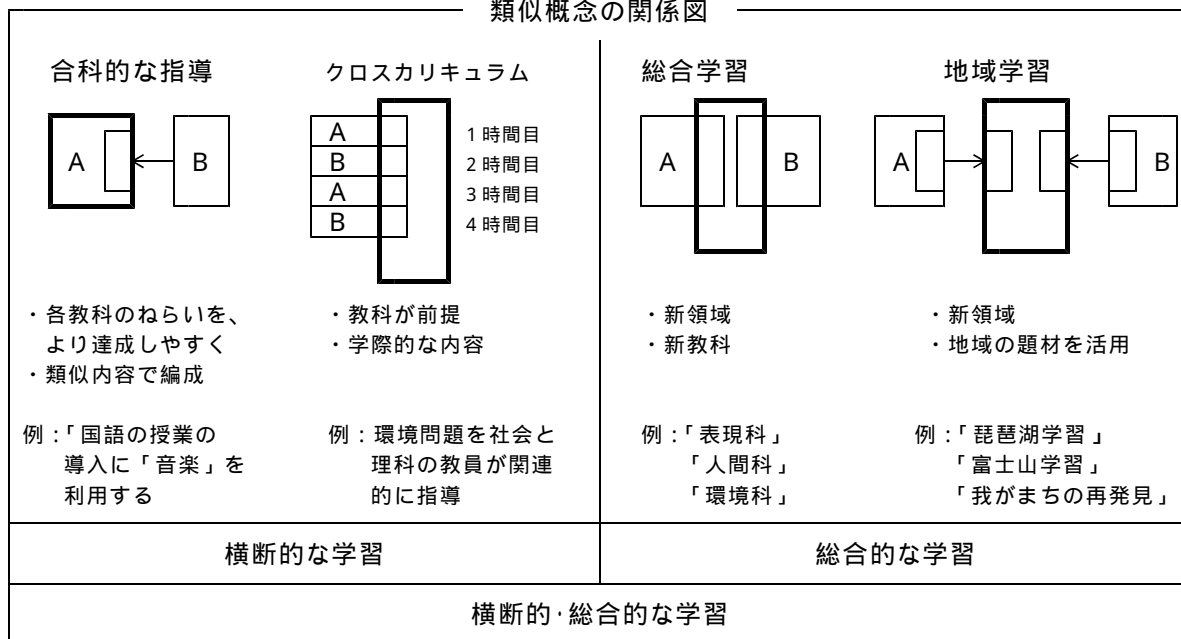
地域学習

地域の歴史、文化、自然、産業等に関する題材を中心にしたカリキュラムを編成して行う総合的な学習

(例)「琵琶湖学習」(滋賀大附属中)

「富士山学習」(富士宮二中) 「我がまちの再発見」(元吉原中)など

類似概念の関係図



### 1 横断的・総合的な学習の意義

「生きる力」の知的側面に着目すると、課題を自ら発見していく主体的思考や発見した課題に熱中して取り組む問題解決能力をはぐくむことが重要である。

- (1) 人間のもつ資質や能力を総合的に育てようとしたとき、教科の枠にこだわることなく、教科等を横断したり、教科を越えた学習内容を設定したりして、子供の全能力をはぐくむことが大切である。
- (2) 現代社会の課題と、子供が向き合い取り組み合いをし、自己の生き方を探求する学習場面が必要である。
- (3) 体験という五感によって、事物・事象を感じ取り、それを対象化し、さらに概念や法則を生かして自己表現をしたり、豊かな生活の向上をめざすという実践にいたる学びの過程を体験する。
- (4) 教育内容の精選を行い、基礎・基本に絞り込み、各教科等で重複したり、関連の深い内容は相互に関連づけたり、統合を図ることができる。

### 2 横断的学習について

各教科、道徳、特別活動をたて糸とし、それらに横糸を通して横断し、関連づけていく編成の方法

- (1) 一つのテーマを設定することによって、教科・領域等の関連をもたせる。
- (2) 学習のねらいは別々であるが、一連の活動によって教科・領域等で関連づける。
- (3) 学習のねらいを教科・領域等で関連づけ、子供の見方・考え方を広げる。
- (4) ある教科の問題解決に別の教科・領域等の知識・技能・学習の方法が必要な場合、両者を関連づける。
- (5) 導入やまとめなど、単元の一部において、教科・領域間に関連がある場合、両者を関連づけて、それぞれの学習へと導く。

#### 効果

- ・多面的、構造的、統一的な見方・考え方が身につく。
- ・学ぶ意欲や問題意識の持続ができる。
- ・子供の思考の流れにそった学習活動が展開できる。
- ・授業時数の軽減から、子供の追求活動の時間を確保し、教師の支援活動を十分に行うことができる。

### 3 総合的に学習について

各教科・領域等の枠にこだわらずに、もしくは意識的に枠を越えて学習内容を設定する。

#### 方法や効果

- (1) 子供を教科や学習方法の違いで分けるのではなく、個のおもいを学習主体とし、そのおもいを探求し、表現していく。
- (2) 実際の生活や環境を学習の対象とし、体験的な学習をしたり、問題解決的な学習を進める。
- (3) 各教科等の発展・応用の場面、実践の場面としてとらえ、学習していく。
- (4) ある学習課題やテーマをめぐって、調査研究、実験的研究、歴史的研究等、さまざまなアプローチが考えられる。
- (5) 子供の個性が発揮されるとともに、それらの成果が互いに交換され、協同の能力と集団における自主性・表現力を育てる。